



お元気ですか

志村 たかよし です

第549号 2011年7月17日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1  
電話 3546-5563  
FAX 3546-9570

## 災害から区民の生命を守るまちづくり

# 「防災計画」見直し、「津波避難ビル」指定、FMラジオ普及…など提案



福祉と防災のまちづくりを区長に提案

東日本大震災をふまえ

### 防災計画見直しへ

私（志村）は「大地震による地盤沈下、液状化、堤防の決壊、そこへの大津波…。区は、このような可能性を想定した災害対策を独自に研究・検討しているのか」と質問したところ、区長は「国や都の防災計画見直しを受け、適切に講じる」と答えました。

私は、国や都の見直しを待つのではなく、区が独自で対策をすすめることを求めました。

「津波避難ビル」について

### 臨海6区で検討開始

大津波の時に、緊急または一時的に避難する「津波避難ビル」は東日本大震災でも1万人の命を救ったと言います。

私は、中央区内で「津波避難ビル」の指定を進めることが、防災上もコミュニティづくりの点でも重要になると提案しました。

### 【質問項目】

- ①福祉と防災のまちづくりについて
- ②福島原発事故と放射能問題、エネルギー政策について
- ③「社会保障と税の一体改革」「復興財源」と消費税増税について
- ④築地市場廃止問題と「賑わい施設」構想について
- ⑤「君が代」起立強制問題について



区長は「東京湾に面する6区の防災担当者による連絡会を設け、検討を始めた」と答えました。

### 「中央エフエム」普及に努力

被災地では、携帯電話が送受信不能となり、電気も切れるなか、情報の頼りはラジオだったということです。

私は「『中央エフエム』が災害時に活用されるためにも、日頃の放送内容を充実させてリスナーを増やし、中央区のコミュニティラジオとして普及・活用する努力が必要」と指摘しました。

区長は「日常的に聴いてもらえる放送局となるよう働きかけを続ける」と答えました。

# 「災害弱者」の命を守る、医療・福祉の充実を提案

## 福祉ネットワークの強化を促進

災害が起きても命を守る医療と福祉の充実が求められます。

私は、介護事業者の事業継続計画（BCP）の確認や、災害時に協力していただける福祉ボランティアの育成、福祉のネットワークの構築などに日頃から取り組む必要があると提案しました。

区長は「BCPは実地指導時に点検している。介護施設での受け入れやボランティア・区民活動センター等の取り組みを通じたボランティアの育成、おとしより相談センターを核とするネットワークの強化を進める」と答えました。



## 障害者への生活支援体制の構築を図る

障害のある人は、避難所で特別な困難を抱えることになり、家族は、周囲に気を使って避難所を出ざるを得ない状況も生まれます。

私は、障害のある人が長期間、安心して避難生活を送ることができる福祉避難所の充実・改善を求めたところ、区長は「プライバシーの確保、医療的ケアの充実に向けた検討を進め、保健・医療・福祉の連携による生活支援体制の構築を図る」と答えました。

## 福祉関係の民間事業者との連携強化・訓練も

私は、行政と民間事業者や指定管理者などが連携をとって被災者を支援するマニュアルおよび災害訓練等の必要を指摘しました。

区長は「今後、連携を強化し、より実効性のあるマニュアル作りや訓練に取り組む」と答えました。

## 日本共産党が提案した「四つの意見書」 他会派の賛同得られず

日本共産党区議団は、今定例会において、四つの「意見書」を各会派に提案しました。

①「原発からのすみやかな撤退と自然エネルギーの本格的導入を求める意見書」

②「介護保険法改定に関する意見書」

③「豊洲新市場予定地の土壌汚染の再調査を求める意見書」

④「復興財源に関する意見書」

私は、幹事長会において、これらの「意見書」を提出する必要性を訴えましたが、他会派が賛同しなかったため「意見書」はまとまりませんでした。

「意見書」の要望など、お気軽に「連絡ください」(03-5560-6300)